室町時代

名前

問1　日本の古代から中世にかけて成立した書物について述べた文として、時代順に正しく並んでいるものはどれですか。（2018年 東京都公立入試 類似）

1. 枕草子 → 日本書紀 → 風姿花伝 → 蒙古襲来絵詞
2. 日本書紀 → 枕草子 → 蒙古襲来絵詞 → 風姿花伝
3. 日本書紀 → 蒙古襲来絵詞 → 枕草子 → 風姿花伝
4. 枕草子 → 風姿花伝 → 日本書紀 → 蒙古襲来絵詞

問2　14世紀前半の年表において、鎌倉幕府の滅亡と室町幕府の成立の間に位置づけられる「建武の新政」が、わずか2年余りで失敗に終わった主な理由として適切なものはどれですか。（2021年 愛媛県公立入試 類似）

1. 執権である北条氏が実権を握り続け、天皇の権力が及ばなかったため
2. キリスト教の布教を認めたことで、仏教勢力や保守的な武士が反乱を起こしたため
3. 公家を重用し、武士の功績に対する恩賞や土地の権利を軽視したため
4. 元（モンゴル帝国）の再来に備えるための軍役が、武士の負担になりすぎたため

問3　琉球王国が東アジアや東南アジアとの貿易で繁栄した背景には、当時の中国との密接な関係がありました。琉球王国が朝貢を行い、貿易を継続していた中国の王朝名を答えなさい。（2025年 秋田県公立入試 類似）

1. 元
2. 唐
3. 宋
4. 明

問4　15世紀ごろの琉球王国は、東シナ海の中央に位置する地理的条件を活かして繁栄しました。日本、朝鮮、中国（明）のほか、タイのアユタヤやベトナムといった東南アジア諸国の品物を仕入れ、それらを各地へ転売することで利益を得ていた貿易の形態を何といいますか。（2023年 沖縄県公立入試 類似）

1. 中継貿易
2. 南蛮貿易
3. 朱印船貿易
4. 勘合貿易

問5　室町時代には商品の流通が盛んになり、各地を結ぶ陸上の交通が発達しました。この時期に、馬を利用して荷物の運搬を専門に行った運送業者のことを何と呼びますか。（2026年 栃木県公立入試 類似）

1. 問丸
2. 馬借
3. 土倉
4. 株仲間

問6　室町幕府が土一揆の要求を受けて「徳政令」を出すに至った背景や、その仕組みについて述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 大阪府公立入試 類似）

1. 自立性を強めた農民（惣村）の団結力が強まり、幕府が社会の秩序を維持するために要求を無視できなくなったため。
2. 武家諸法度の原則に基づき、領民の生活を安定させることが将軍の慈悲であるという儒教的な思想が普及したため。
3. 幕府が貨幣の流通量を調整し、デフレ不況を解消して商人の経済活動をさらに活性化させることを目的としたため。
4. 幕府が農民から直接税金を徴収する仕組みへ切り替えるため、守護大名の経済的な基盤を弱める意図があったため。

問7　室町時代の14世紀から15世紀にかけて、農民たちが自立性を強め、自衛や灌漑用水の管理を行うために結成した自治的な村の組織を何といいますか。（2018年 福岡県公立入試 類似）

1. 惣（惣村）
2. 口分田
3. 座
4. 蔵屋敷

問8　かつて沖縄の首里城正殿にかけられていた鐘には、琉球王国が「万国の架け橋（万国の津梁）」となって、明や日本などとの中継貿易で栄えている様子が刻まれています。この貿易によってもたらされた富や大陸文化が流入し、銀閣寺などの東山文化が花開いた場所は、現在の地図におけるどの都市付近にあたりますか。（2019年 富山県公立入試 類似）

1. 京都
2. 平泉
3. 堺
4. 厳島

問9　日明貿易（勘合貿易）において用いられた「勘合」の役割と、この貿易が当時の日本社会に与えた影響について述べた文として、正しいものはどれですか。（2019年 神奈川県公立入試 類似）

1. キリスト教の布教を制限するために勘合が使われ、輸入された銀が日本国内の物価を安定させる要因となった。
2. 明への服従を拒否するために勘合が使われ、日本から輸出された生糸が国内の産業を圧迫することになった。
3. 正式な貿易船と倭寇を区別するために勘合が使われ、輸入された銅銭によって国内の貨幣経済の発達が促された。
4. 幕府が貿易を独占するために勘合が使われ、日本から輸出された陶磁器が明の文化に大きな影響を与えた。

問10　室町時代、和泉国の堺（大阪府）や山城国の京都といった都市では、経済力を蓄えた有力な商人たちが結集しました。彼らが武士の支配に頼らず、町の警備や運営を自分たちで行った社会的な仕組みを何と呼びますか。（2018年 神奈川県公立入試 類似）

1. 自治（じち）
2. 門前町（もんぜんまち）
3. 惣村（そうそん）
4. 寄合（よりあい）

問11　室町時代に行われた日明貿易（勘合貿易）について、貿易船に「勘合」を持たせることになった当時の国際的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2017年 大阪府公立入試 類似）

1. 東アジアの海域で活動していた倭寇を鎮め、正式な貿易船と区別して管理するため
2. 特定の有力な大名が貿易を独占することを防ぎ、朝廷の収入を確保するため
3. 大陸で勢力を広げていたモンゴル帝国の侵攻に備え、船の動向を監視するため
4. キリスト教の布教を目的とする宣教師が、貿易船に紛れ込むのを防ぐため

問12　室町幕府は、京都の有力な商工業者を保護する代わりに、彼らに対して「倉役（くらやく）」や「酒屋役（さかややく）」といった税を課し、幕府の重要な財源としていました。このとき、税を課された業者の活動内容について説明した文として最も適切なものはどれですか。（2024年 岡山県公立入試 類似）

1. 質屋を営み、利息を取って金銭を貸し付ける金融業を行っていた。
2. 江戸時代に幕府の許可を得て、商品の独占販売権を持つ同業者組織を結成していた。
3. 港の近くに拠点を置き、年貢の輸送や保管を代行する運送業を行っていた。
4. 村の行政を担当する責任者として、農民の年貢納入のとりまとめを行っていた。

問13　室町幕府の全盛期を築いた第3代将軍、足利義満の政治的業績として、正しい内容を述べているものはどれですか。（2026年 栃木県公立入試 類似）

1. 応仁の乱による京都の荒廃を防ぐため、守護大名の勢力を大幅に削減する法令を出した
2. 朝廷との交渉によって、約60年にわたって分かれていた南北朝の合一を成し遂げた
3. キリスト教の布教を許可する一方で、鉄砲を組織的に運用して戦国時代の混乱を収束させた
4. 執権の地位を確立し、御成敗式目を制定して武士の裁判基準を明確にした

答え合わせ・解説

問1	答え 2 日本書紀 → 枕草子 → 蒙古襲来絵詞 → 風姿花伝	奈良時代に律令国家の正当性を示すために『日本書紀』が編纂されました。その後、平安時代の中期に清少納言によって宮廷生活を綴った『枕草子』が書かれました。鎌倉時代には、元寇での自らの活躍を記録させた『蒙古襲来絵詞』が登場し、室町時代に入ると世阿弥が能の理論を『風姿花伝』としてまとめました。このように、各時代の社会情勢や文化の担い手を反映した順序で成立しています。
問2	答え 3 公家を重用し、武士の功績に対する恩賞や土地の権利を軽視したため	後醍醐天皇は公家中心の政治を復活させようとしたため、幕府打倒に貢献した武士たちへの恩賞が不十分であったり、土地の所有権をめぐる裁判が混乱したりしました。この結果、武士たちの期待を裏切ることとなり、足利尊氏らによる離反を招く決定的な要因となりました。
問3	答え 4 明	琉球王国は中国の明に対して朝貢を行い、臣下としての礼をとることで正式な貿易を認められていました。これにより中国の絹織物や陶磁器を安定して入手し、それを他のアジア諸国へ運ぶ貿易体制を確立しました。
問4	答え 1 中継貿易	琉球王国は、自国の産物だけでなく、各国の特産品を一度集約してから別の国へ運んで売買する役割を担いました。これにより、アジア全域の物流を結ぶ拠点として機能し、首里城を中心とする独自の豊かな文化を築く原動力となりました。
問5	答え 2 馬借	室町時代には定期市の回数が増えるなど経済が活性化し、物資を運ぶ必要性が高まりました。馬借は馬を所有して荷物を運ぶ業者で、主に近畿地方の港町や交通の要所に集まり、物流の主役となりました。土倉は質屋を営む金融業者、問丸は港湾での運送や宿泊を担った業者、株仲間は江戸時代に結成された商工業者の同業者組織です。
問6	答え 1 自立性を強めた農民（惣村）の団結力が強まり、幕府が社会の秩序を維持するために要求を無視できなくなったため。	室町時代には、農民たちが「惣（惣村）」という自治組織を作り、村の運営を自分たちで行うほどに自立性を強めていました。彼らが団結して起こす土一揆は、京都を包囲したり交通を遮断したりするほど強力なものだったため、幕府は統治の安定を図るためにその要求を呑まざるを得なくなりました。後には、幕府が徳政令を出す代わりに手数料（分一銭）を取るという「分一徳政令」を出し、幕府の財源とする仕組みも生まれました。
問7	答え 1 惣（惣村）	室町時代、農民たちは「寄り合い」と呼ばれる会議を開いて村独自のルール（村の掟）を定め、自分たちで村を運営するようになりました。このような自治組織を「惣（惣村）」と呼びます。選択肢にある「座」は商工業者の同業者組合、「蔵屋敷」は江戸時代に諸藩が年貢米などを売るために設けた施設、「口分田」は古代の律令制下で農民に割り当てられた土地を指します。
問8	答え 1 京都	「万国の津梁」と刻まれた鐘の銘文は、琉球王国がアジア諸国と日本を結ぶ貿易の拠点であったことを示しています。この貿易を通じて大陸の文化や物資は日本の政治の中心地であった京都へと運ばれ、将軍家などの保護を受けて銀閣（慈照寺）に代表される東山文化の発展を支えました。選択肢にある堺は自治都市として栄え、厳島は平氏の崇敬を集めた安芸国の地であり、平泉は奥州藤原氏の拠点です。
問9	答え 3 正式な貿易船と倭寇を区別するために勘合が使われ、輸入された銅銭によって国内の貨幣経済の発達が促された。	明は倭寇（海賊）による被害に苦しんでいたため、足利義満に対して倭寇の取り締まりを求めました。これに応じた義満は、勘合という割符を用いることで正式な貿易船を証明し、密貿易を排除しました。この貿易で得られた銅銭は、日本国内で年貢の銭納化や市場の活性化といった貨幣経済の進展に大きく寄与しました。
問10	答え 1 自治（じち）	室町時代には商工業が発展し、京都の「町衆（まちしゅう）」や堺の有力商人たちが、町を自分たちの力で管理するようになりました。特に堺は周囲に堀を巡らせて防衛し、会合衆と呼ばれる商人たちが合議によって運営を行うなど、独立した機能を持つ「自由都市」としての性格を強めました。
問11	答え 1 東アジアの海域で活動していた倭寇を鎮め、正式な貿易船と区別して管理するため	当時の東アジアでは、倭寇と呼ばれる海賊集団が沿岸部で略奪を行っており、明の皇帝は日本に対してその取り締まりを強く求めました。室町幕府はこれに応じる形で、正式な外交ルートである証明として勘合を使用し、倭寇による私貿易や略奪活動を抑え込もうとしました。この仕組みが「勘合貿易」という名称の由来にもなっています。
問12	答え 1 質屋を営み、利息を取って金銭を貸し付ける金融業を行っていた。	室町幕府は財政を安定させるため、京都の「土倉」や「酒屋」といった、大きな利益を上げていた金融業者に注目しました。これらの業者から定期的に徴収した税は、幕府を維持するための基盤となりました。選択肢にある運送業は「問丸」、江戸時代の独占組織は「株仲間」、村の責任者は「組頭」を指します。
問13	答え 2 朝廷との交渉によって、約60年にわたって分かれていた南北朝の合一を成し遂げた	足利義満は1392年に南北朝の合一を実現し、政治的な混乱に終止符を打ちました。また、明（中国）との間で勘合貿易を開始して経済的な基盤を固めるとともに、京都の室町に花の御所を造営し、幕府の権威を最大限に高めました。